

第9回サッカースタジアム検討協議会

三浦会長

第9回サッカースタジアム検討協議会を開催いたします。

本日は、鶴野委員が欠席、塚井委員が少し遅れての出席となります。

今回は次第にお示ししておりますように、各候補地に考えられる規模、複合機能等を挙げております。前回の協議会では、大阪府吹田市におけるサッカースタジアムの建設について、ガンバ大阪の野呂社長にお越しいただき、説明を受けました。これまでとは違い、新しい仕組みを導入しながら建設を行い、その上で後の管理を別の所に任せる。スタジアムの設計についても現代のスタジアムに求められる色々な機能を付加していると思います。これから具体的にスタジアムについて議論していく我々にとって参考になったと思います。

今回議論する内容については、次第にありますように、広島におけるサッカースタジアム施設規模、多機能化・複合開発の可能性等に関する考察について、考えていければと思っています。これまでの協議会において、当初より議論を進めていきながら、候補地にどのような法的制約があるのか、そもそもその場所について、今後の広島市、広島県のまちづくり全体の中で、どのような役割を担っていくことを期待されているのか、それらを踏まえて私たちは議論を進めてきたと思います。そういった中で、現段階では、中央公園自由広場・芝生広場等、旧広島市民球場跡地、広島みなと公園、広島西飛行場跡地、広島広域公園の5カ所に絞ったことになります。この5カ所について、それぞれの場所でこれまで議論を進めていましたように、その場所が何ができるのか、スタジアムを造るにあたって、できる限り機能を多くし、できればそれを核として複合的な開発を進めることができるのか、という視点をスタジアム建設においては考えていきたいということで、その点についてそれぞれの候補地がどのような状況にあるのか、我々が捉えていくべきであろうと。そういった中で以前、私が紹介させていただきました、日本政策投資銀行からスポーツを核としたスマートベニューということを提示されたと思います。スポーツ施設が地域の交流空間として機能していくこと、今後のまちづくりにおいて大きな役割を果たすだろうということ、それからヨーロッパ、アメリカにおいてスポーツというものの力が強いということから、これをうまくまちづくりの中で活用していこうという流れになっているので、日本政策投資銀行にそういった視点から各候補地において何ができそうかということについて、私から依頼を行い、まずはあまり時間のない中で、現状で入手できる情報の中から、議論のたたき台となる資料を作成いただきました。まず最初にこちらについて日本政策投資銀行から説明していただきます。

日本政策投資銀行

日本政策投資銀行中国支店の新井でございます。このような機会をいただきまして、ありがとうございます。

三浦会長からお話がありましたように、私どもが全国のレベルで見た時に、サッカースタジアムをまちづくりにどのように活用していくのかという観点から、スマートベニュー、施設設計の報告を行い、その中からスタジアムを単機能で整備する場合と、複合的に多機能で整備する場合と、より広く広域でまちづくり観点から整備してきた場合で、どういうインパクトを持つかということをご報告させていただきました。そのうえで海外の事例、特にヨーロッパの事例を中心として、複合型のまちづくりの観点を含めて、オランダ、フランス、イタリアの事例を中心に、そういったものが、今後こちらでの施設整備の中に反映する時に役立つのか、供給側の理論だけではなく、実際の需要動向を踏まえて整備していくということ。その過程において、専門的な視点を持った方の協力を得ていくということを報告させていただいたところです。

その流を受けて、先般の協議会において三浦会長から、改めてこの広島のスタジアムを整備していくにあたり、この協議会の議論に相応しいように、広く多面的な角度から資料を提供しても

raitaiとの依頼を受けましたので、今日は、私どもが広島市、広島県のお持ちの情報を含めて、我々なりに咀嚼できるところで整理したものをベースに、皆さまの今後の検討に役立つような形を中途の段階ですが整理させていただいております。そのうえで、そういったものを今後考えるにあたって、より専門的な立場が将来必要になってくるかもしれませんが、その前提としてお役に立てば、我々としても大変幸せだと思っております。それでは、具体的にその調査をまとめた岡田からご報告いたしますので、よろしくお願いします。

日本政策投資銀行中国支店の企画課長の岡田でございます。本日はよろしくお願いいたします。冒頭、新井から説明がありましたが、少したたき台となるものをご提示したいと思います。どういう立場で日本政策投資銀行がお話するかということ、まず冒頭にはっきりさせていただきたいと存じます。機能論という切り口で今まで協議会の場でも議論されていると思いますが、この機能論に係る議論を協議会で行っていただくためのプロセスを考えるうえで必要となる論点でありますとか、その判断材料を伝えていくのが、我々の目的だと考えています。従いまして、この場で我々がこう考えています、こうすべきだと言うのではなく、今回の資料を皆さまで議論のたたき台として使っていただき、今後どういったことを具体的な検証していくかということにつなげていただければと思います。従いまして、今回の資料は、広島市、広島県という行政の立場の方の見解ではなく、あくまで日本政策投資銀行がたたき台としてまとめた、このようにご理解いただければ幸いです。

具体的にお手元の資料ですが、まず冒頭に三浦会長から4つの候補地＋現行のスタジアムもありますが、4つの候補地について、いまどういった建設可能面積があるのかについて調べました。委員の皆さまには、資料をカラーで配布しておりますが、傍聴者、記者の方々には白黒かもしれませんので、もし私が色のことを言いましたら、前の画面をご覧くださいければ幸いです。

旧広島市民球場跡地の現状について申し上げます。建築が困難な区域がありました。地下や地上の構造物、民間施設が立地している場所は除きましょうというのがベースの考えかと存じます。地下の構造物としましては、旧広島市民球場跡地の南側にあります、地下街の駐車場出入口、基町ポンプ場、北側には武道場、さらに周辺のパーキングアクセスにつきましては、建設対象エリアからは外して考えています。さらに建物としましては、西側の青少年センター、広島市こども文化科学館、広島商工会議所、P Lの広島中央協会がありますので、ここの建物等につきましては、球場跡地の建設可能区域からは除いて考えるという整理をしています。青で囲んでいるハノーバー庭園という敷地があります。これはドイツの姉妹都市提携をしている庭園ですが、こちらについて面積等を伺ったところ、実寸ではないですが、約50m×48mの敷地があると伺っています。ここについて移設が可能かどうかという観点で申し上げますと、比較的に移設が容易にできるのではないかとということで、今回は建設可能面積の中に含めています。ここを除いて設計等で考えるのではなく、ここも建設可能な用地として今回は含めるという整理をしました。ちなみに南北の長さは190m、東西に175mというのが縦横の軸とお考えいただければ幸いです。

続いて、中央公園自由広場・芝生広場等です。こちらの面積ですが、従前、協議会では8.5haが可能と回答してまいりましたが、実際にこの中で考えてみますと、西側の環境護岸の緑と中央公園の間に道路が通っています。こちらについては、生活道路になっているということで建設可能面積からは外すという整理をしました。さらにその南西に中国庭園の渝華園という公園があり、ここも建設可能面積からは外すという整理をしました。従いまして、最終的には敷地面積といたしましては、7.9haになりますが、ここで注釈があります。堀川とありますが、太田川から広島城のお堀に水を循環するための取水口と入水口の2つがありますが、こちらについては、移設可能と担当者から伺いましたので、当然ながら移設に伴うコスト等はいかかるわけですが、こちらは移設可能対象エリアとして含むとして整理いたしました。南北に185m、東西に375mという直線距離が引けますということです。

続きまして、広島みなと公園です。構造物につきましては、特段、トイレ以外はないというこ

とで、西側に駐車場・駐輪場のスペースがあります。駐車場の台数は350台、駐輪場は約2,000台分のスペースと伺っています。中央に臨時ヘリポート用の用地が円で書いていますが、ここも含めて建設可能用地ということで、合計では8.4haという数字になったかと思います。こちらの形状といたしまして、スタジアムの設置場所を制約するものは特段ございませんという話でございますが、しかしながら、先ほどの駐車場・駐輪場のスペースにつきましては、さまざまな用途で使っているということもありまして、これをなくしてしまった場合には、代替的な機能を検討する必要があるという点だけお含みいただきたいと思います。長さにつきましては、正確な長方形ではなく台形ですので、南北に約250m、東西の一番下の底辺で申しあげますと約385mと、こういう敷地の面積になっています。

続きまして、広島西飛行場跡地の平面図です。広島西飛行場跡地につきましては、なかなか建設可能な敷地として明示しにくいのですが、赤字で囲んでいる所が建設可能なエリアと伺っています。しかしながら、ヘリポートの問題というのは、従前の協議会の場合でも議論したわけでございますが、青の点線の部分については、現時点で固まっているわけではないのですが、今後、消防および民間の格納庫を集約させると伺っておりまして、27年度春にはどうなるかということで予定されているのですが、この辺りをヘリポートの区域として確保したいとの広島県の意向があることから、ここは建設可能対象エリアにするには若干考慮が必要かと思います。それから航空法の関係で高さ制限があるという議論が従前ありましたが、ここで緑の掛かっているエリアが、高さ制限のある場所になると。この緑の部分については、高さを考慮して建設する可能性があるということです。そういう意味から申しあげますと、一切の制限のないエリアとして考えられるのは南側、地図でいうと左側になりますが、南側のエリアになります。こちらにつきましては、それぞれ長辺が約520m、短辺は約250mの長さがとれると。ちなみに南側のエリアにつきましては、県と市がそれぞれ2分の1ずつ所有しています。これから北の部分（右側）につきましては、県が単独で所有されています。以上が現時点におけます建設可能対象エリアとご理解いただければ幸いです。

ここから先でございますが、実際に可能エリア、あるいは候補地として検討ができる場所について、どういう規模のスタジアムを考えていくべきかということについて、少し私たちの方でこういう前提を入れてみてはいかがでしょうかということをご提案させていただきます。

前提の整理ですが、グラウンドの寸法及びスタンドの諸前提については、日本サッカー協会「スタジアム標準」第3章フィールド関連事項「フィールドの大きさ」で推奨されている125m×85m以上とする。これを適用するのがよろしいのではないかと。ただし、スタンドの傾斜角度、敷地における高さ基準への準拠等については今後詳細な検討が必要ということで、今回は詳しく議論はしておりません。高さ制限の話も含めてございますけれども、敷地に制約的な事柄がいくつかありますので、そこを考慮して今後より詳細な検討が必要だと考えております。あくまでも今回はグラウンドのスタジアム標準に従いますということを整理させていただきました。

続きまして、建設場所における地理的条件でございます。先ほどの繰り返しになりますが、既に建造物がある場所についてはこれを除きます。但し、旧広島市民球場跡地のハノーバー庭園、下水道配管、中央公園自由広場・芝生広場等の堀川については、移設が比較的容易な構造物であることから建設可能敷地面積に含めましょうという整理をさせていただきます。しかしながら、駐車場等のスタジアム外部空間の諸施設や複合施設とした場合の施設配置、動線計画などは検討対象には含めおりません。ここも今後詳細な検討が必要と考えております。

それから、スタンドの配置でございます。これにつきましてもスタジアム標準の第3章フィールド関連事項「フィールドの向き」で推奨されている南北方向への配置を前提とするということで整理させていただいております。前回でございましたか、協議会の中でも議論がありましたとおり、東西にした場合には西日を浴びる関係で、若干不公平がでていくということを考慮して、南北での配置を原則的に考えるという整理です。

続いて、それぞれの敷地にどれくらいの規模のスタジアムをのせることができるのかを観点に、2万人及び4万人規模スタジアムのスタンド面積（水平投影面積）について整理させていただきました。座席前後間隔、左右間隔、通路間座席数、通路幅の数値等について基準に合っているかどうか検証する必要がある訳ですが、それに加えて現行基準、例えば広島市の条例等を含めて適合状況等を鑑みて、我々でどこが良いのか少し整理してみました。全部適合しているものを見つけるのは難しかったのですが、2万人規模の事例として仙台ユアテックスタジアム、こちらは観客から見易いとの感想を聞いていますし、2万人規模という観点からは適切だろうと考えまして、こちらのスタンド面積を基準としたいと考えました。しかしながら、こちらのスタジアムにつきましては、サッカーのみならず、ラグビーやアメリカンフットボールのグラウンドとしても使用されるので、長辺方向にスタジアム標準より長い敷地をとっております。ここをグラウンドの寸法及びスタンド面積の一部を若干変形を行った上で水平投影面積の検証を行いました。一方、4万人規模の事例でございますが、これは鹿島サッカースタジアムで同じような検証をさせていただきたいと考えています。そこで仙台の話を少し掘り下げてみたいと思うのですが、実際に仙台のスタジアムがどうかという点については、先般、新井が視察をしてまいりましたので、説明をお願いします。

仙台を一つの例にとるということは、2万人という規模だけでなく、周辺の施設開発を含め、あるいはスタジアムに来られる動線を含めご説明したいと思います。仙台駅からユアテックスタジアムのある泉中央駅まで地下鉄で15分。これ（写真）はお昼前後の時間帯ですが、非常に人がしっかりいて、こんな形で改札口やホームがあり、改札の真ん中辺りをご覧くださいと、これからある競技などが集約されています。これが出たところにある実際のこういうものがありまして、スタジアムの周辺にどんなものが立地しているのか分かるようになっていきます。これが改札を出てすぐのところとして、バスでアクセスする場合と地下鉄でアクセスと、1階がバス、2階のところから上がって行ってコンコースでつながっている形になっています。これが地下から1階に上がっています。まず出ますとこういう形で商業施設が展開されていて、これからユアテックスタジアムに向かっていきます。真ん中の白く見える所がユアテックスタジアムのドームです。行く途中に立体駐車場があります。これから降りていきますが、市の駐車場が設置されています。こちら戻りますが、真ん中辺りに見えますのが警察署です。これはスタジアムの入口付近にあるフィットネスクラブです。こういったものも併せて経営されているようです。もう一回駅の方に立って、右側の方をみていくと、こういった住宅も併設されている都市公園が広く形成されていますので、多目的な利用がこの地域全体でできるような形になっています。こういう形で施設が整備されていまして、中には交通弱者の方々に対して駐車場に一番近い所に止められるスペースを設けているのと、地下鉄の橋脚の下を駐車場として使って、その向こう側の都市公園を通って行けるような形になっています。ここは公園から出たところにある公園側の駐車場として、駐車場から見える全景です。こちらが公園側の施設です。正面の右手に見えるのがスポーツ施設です。逆にこちらはＪＲなどがあります。このように休日でも比較的地下鉄の便数はそれなりに確保されておりまして、平日もこのような形になっておりますので、動線上もよく考えておられて、周辺の住宅地、商業施設を含めて複合的な開発が行われている中の2万人規模の収容施設がサッカーとしてある。ですから住民もいらっしゃいますし、かつサッカーに来られる人も利便性の高いところを、仙台の中心部からそれほど遠くないところに上手に整備されたと思えることができます。以上です。

ありがとうございます。仙台、札幌、福岡、広島、こういった都市規模においてどんなスタジアム整理がされるかという点について我々は関心がありました。札幌につきましては、残念ながらサッカーと言いますか、球技専用のスタジアムではなく、野球と一緒に併設されていることもあるので今回は対象から外すと。その他についても調べてみましたが、まちづくりの観点からすると、福岡のスタジアムというのは街の中心から外れていて、なお且つ、周辺にもチーム数が少ないということから、仙台を例として取り上げているという整理です。もちろん仙台以外にも2万規模のスタジアムはいくつもありますので、それは今後より詳細な検討をすればよろしいかということで、

今回は仙台をサンプリングしました。

まずユアテックスタジアムを変形させるイメージですが、先ほどグラウンドの寸法の話をしました。ここをきちんと合わせるというところから、どういうことをしたかと言うと、ユアテックスタジアムの縦の長さが152m、短辺と言いますか東西の方が88mという寸法ですが、これを先ほどのスタジアム標準で推奨されている範囲内に変形します。125m×85mに上部の赤い部分、左右の部分の2カ所の面積を一回削ります。そのうえで削った部分の面積を計算しまして、変形した後のスタジアムに追加して、要はスタジアムの客席の面積と言いますか、建設可能面積につきましては、同じ面積を確保するという観点から、若干削った部分を戻す作業をしまして、そのスタジアムの大きさではまるかどうか検討させていただきました。左側がカシマスタジアム（4万人規模）、右側がユアテックスタジアム（改）（2万人規模）、この2つの図を同じサイズではまるかどうか検証させていただきました。

これが旧広島市民球場跡地における2万人規模のはめ込みイメージです。敷地につきましては先ほどご説明したとおりですが、恐らく左側の下にあります商工会議所の角にぎりぎり当たるか当たらないかの置き方にするのか、あるいは右側に武道場がありまして、その地下に戻ってくる地下道がありますが、そこの右側に寄せるかで配置が決まる訳ですが、いずれにしても、南北、縦の長さが190m、ここに合わせることはできるという整理です。

続いて、中央公園自由広場・芝生広場等です。こちらは、南北に185m、東西には375mありまして、何処に置くかということは、色々と景観等の観点から整理する必要があると思いますが、今回は武道場から真っすぐ北の方に伸ばしたこの軸を採用し、ここに置くという整理をさせていただきました。見たところ、185mのこの敷地にはこの敷地面積というのは入ります。従いまして、2万人規模のスタジアムであっても、中央公園自由広場・芝生広場等には、はめ込むことはできるということです。

続きまして、広島みなと公園です。まず2万人規模のスタジアムにつきましては、余裕を持てはめ込むことができるということでございます。4万人規模、先ほどのカシマスタジアムを当てはめてみましても、南北ともに余裕がございます。左側の駐車場等を削ることなくはめることができることが分かりました。

続いて、広島西飛行場跡地です。こちらにつきましても、2万人規模と4万人規模、それぞれ南側エリアではめ込むことができるかどうかの検証ですが、ご覧のとおり、2万人規模についてははめ込むことができます。4万人規模のカシマスタジアムであっても、この南側エリアにははめ込むことができるという整理ができます。

以上、見ていただいたとおりでございますが、2万・4万人規模それぞれの敷地において、どういう状況かという点については、若干、仙台のスタジアムを変形することによって、2万人規模のスタジアムについては、候補地において当てはめることができると、4万人規模のスタジアムについて、広島みなと公園、広島西飛行場跡地にこの規模であれば当てはめることができるという整理でございます。

こういった条件に基づきまして、施設の規模、多機能化・複合開発からの観点から今後調査すべき事柄というところで、候補地それぞれについて整理させていただきました。

旧広島市民球場跡地でございますが、敷地的な制約を申しあげますと、南北約190m、東西約175m、ハノーバー庭園・下水道配管を移設可能とした場合の建設可能面積3.9haと整理されます。想定収容人数は約2万人程度と記載させていただきました。仙台ユアテックスタジアム（変形）を南北に当てはめた場合の想定収容人数となります。敷地を見ていただいたとおりでございますが、将来的な増築をする余地はないと整理できるかと思えます。多機能化・複合開発の観点からご説明いたしますが、機能面でございます。敷地面積の制約から多機能化させるためのスペースには限りがあると整理させていただきました。多機能化とは何かと言いますと、この一つのスタジアムは年間20数試合の利用だけでは、もったいないと言いますか、色々な使い方をすることによって施設を有

効に活用しましょうと。例えば欧州の例で申しあげますと、サッカースタジアムでありますけれども、そこが会議場になったりコンベンション施設になったり、映画館があったり、宿泊施設があったり。いろいろな形で同じ建物の中を色々な機能で使い回しましょうと。それによって一年中ここに人が集うような施設というのが多機能化のイメージでございます。旧広島市民球場跡地について多機能化の観点で申しあげますと、スペース的な制約から難しいということだと思います。それから複合開発、スタジアムを核として周辺の開発をしていきたいと思います。例えば、居住区スペースと言いますか、人が住めるようなマンションを建てましょうという話でありますとか、さまざまな開発を一体として、新しい都市・まちづくりをしていきたいと思いますというのが複合開発のイメージです。旧広島市民球場跡地について申しあげますと、敷地面積の制約もありますが、都市公園法上の制約（施設の用途）の観点から、複合開発の余地はないという整理をさせていただきました。今後調査すべき事項といたしましては、やはり動線の計画。敷地が限られた場所ですので、どのように動線を引くか。これは選手の動線もそうですし、報道車、観客の方々の駅からの動線、こういったことについても、この敷地の中において検討する必要があります。それから駐車場スペースの話も当然あります。この敷地内に確保するのは極めて難しいと思いますが、従いまして、公共交通の利用を促進する必要があると思います。周辺に民間の駐車場がいくつかありますが、土日・休日等をよく見てみますと、大変駐車場自体が混雑しているということもありますので、雑周辺にあるから造らなくていい、必要ないのではないかというのは、少し乱暴な議論ではないかと個人的には感じています。

続きまして、中央公園自由広場・芝生広場等でございます。まず敷地面の話をしていただきます。南北約185×東西約375m、堀川（埋設管含む）を移設可能とした場合の建設可能面積は7.9haと整理されます。想定収容人数は旧市民球場跡地と同程度の規模と整理させていただきました。将来、南北に増築する余地はありませんが、東西への増築は可能という点が先ほどの旧市民球場跡地とは違うということでございます。多機能化でございますが、この場所につきましては、敷地面積の制約はないという整理です。周辺地域は開発済であることから多機能化を検討するのではなく、周辺施設との有機的な繋がりという観点から、サッカースタジアムのあり方、位置づけを考えるべきではないかという整理をさせていただきました。それから複合開発でございます。都市公園法上の制約（施設の用途）を踏まえますと、複合開発の余地は限定的だろうと。従いまして、ここに書いてあるとおり、広く一般の使用が見込まれるホテル、百貨店、映画館等については不可能かという整理かと思われます。今後調査すべき事項といたしましては、北側にあります基町の市営住宅、小学校、保育園があります。こちらの日影規制につきましては、高さ制約が今後でてくる可能性があるという点を挙げさせていただきました。旧広島市民球場跡地と同じでございますが、駐車場スペースにつきましては、やはり確保が困難ですので公共交通の利用促進が必要かと思います。それから最寄り駅、恐らく城北か広島辺りになるとおもいますが、この最寄り駅からの観客動線についてもしっかりと検討する必要があるということを書かせていただきました。

続いて、広島みなと公園でございます。敷地につきましては、南北約250m×当座約385m、建設可能面積は8.4haでございます。想定収容人数は4万人程度、カシマスタジアムを南北に当てはめた場合に、この敷地に収まるということから、4万人という数字を考えさせていただきました。多機能化の論点でございますが、敷地面積の制約はございません。周辺地域の商圈、立地環境に基づき多機能化の可能性については、しっかりと検討する必要があることから、ここは要検討すべきという形でコメントさせていただきました。複合開発でございますが、残余スペース、商圈ニーズ等を踏まえて検討すべきであろうと。さらに近隣に住宅が存在しておりますので、商業施設、レストラン、運動施設等については、しっかりと調査をしたうえで可能性について検討する必要があると思います。今後調査すべき事項でございますが、ロケーションの観点から交通量をどのように検証すべきかという点は非常に大きな話でございます。輸送能力、渋滞問題についてはしっかりと検証する必要がある。それから、駐車場スペースの確保。ロケーションが少し都心部から離れていますの

で、そこに車で来る方の駐車場スペースをどのように確保していくかという点も論点かと思います。

続いて、広島西飛行場跡地でございます。敷地の制約について申し上げますと、広島ヘリポート区域より南側が建設可能エリアと今回は整理させていただきました。ヘリポート付近のエリアは、航空法の高さ制限がありますと。制限のない南側のエリアにつきましては、南北約520m×東西約250m、建設可能面積は約13haと整理できると思います。想定収容人数でございますが、先ほどの広島みなと公園と同様、カシマスタジアムを南北に当てはめた場合、4万人規模を当てはめることができますので、4万人程度と整理させていただきました。多機能化の観点でございますが、南側のエリアにつきましては、敷地面積の制約はございません。周辺地域の商圈、立地環境に基づき多機能化の可能性を検討すべきであろうという整理でございます。複合開発の観点でございますが、既存の交通網、あるいは広島南道路の開発状況等を勘案しまして、車での来場を前提とした施設や住宅との一体開発に可能性があるのではないだろうかという整理をさせていただきました。今後調査すべき事項ですが、交通量調査（輸送能力、渋滞問題）の検証が必要であろうと。さらに駐車場スペースの問題については、先ほどと同様でございます。それから、広島西飛行場跡地活用ビジョンとの整合性という観点から、主な導入機能といたしましては、広域防災、スポーツ・レクリエーション、新たな産業（雇用、にぎわい）といったところとの整合性をどうしていくかという点も考慮すべきだろうと思います。

最後に広島広域公園の現状につきまして整理させていただきます。面積でございます。現スタジアムの改修という観点から見ております。想定収容人数は4万人程度という整理かと思われます。多機能化につきましては、周辺地域の商圈、あるいは開発動向に基づき多機能化の可能性については検討する余地があるという整理でございます。複合開発の観点でございますが、都市公園法の制約（施設の用途）を踏まえますと、複合開発の余地は限定的だろうということでございます。今後調査すべき事項につきましては、駐車場スペースの確保、アストラムライン延伸計画との整合性という観点から整理が必要であろうという話をさせていただきました。

最後に、先ほどから需要を見極めたいという考えを、繰り返し私から申し上げてまいりましたが、どういう統計分析をすればいいかという点について、これは委員限りの資料でございます。大変恐縮でございますが、皆さま前の画面をご覧くださいと思います。ひとつご提案申し上げたい方法としましては、地理情報システムG I F（ジオグラフィックイノベーションシステム）というものがあまして、この話を少しだけご紹介程度にさせていただきたいと存じます。G I Fというのは、位置情報、空間に関するさまざまな情報を重ね合わせることで、情報の分析・解析を行ったり、情報を視覚的にするシステムでございます。例えば、防災と言う観点から、防災施設がどこにあるのか、さらに老朽化した木造住宅がどのように分布しているのか、高齢の方がどの辺りに集積しているか、そういった観点の情報を重ね合わせて、防災対策に活かすというのがよく使われるイメージでございます。先ほど、新井からまちづくりという観点から仙台の事例が良いのではないかと申上げましたので、この画面で仙台の事例をご紹介させていただきたいと思います。まずどういう観点からこの地図を作ったかということでございますが、はじめに人口のメッシュ分布というのを整理させていただきました。2010年国勢調査に基づきまして、人口分布を縦横各々500m×500mのメッシュに色分けいたしまして、各々5層の階層に色分けしています。誰も住んでいないところをグレーで表示し0人、1～499人のところを水色、500～1,999人を緑色、2,000～4,999は黄色、5,000人以上はピンクと、こういう5色で色分けをしています。これが仙台のイメージです。ここは地下鉄南北線の終着駅の付近です。元々は仙台市と合併する前は、ここに区役所などの公的機関しかなかったのですが、街の開発をサッカーで整備するという観点から、商業施設等の賑わいを醸しておりまして、この周辺にはイトーヨーカドーなどの商業施設、あるいは公的機関の大小のホールがあるスペースも整備されておりますし、伊勢丹系の施設などもできています。少し離れますと、少し高級な住宅街というのも整備されているというエリアでございます。人口の集積もあり、仙台の中でも人気がある居住エリアだと伺っております。それから地図情

報の話をもう少し申しあげますと、ここで実際に地図を作っております。既存の基盤データを当てはめたのではなくて、行政の区域、河川、鉄道、鉄道の駅、道路の幅、これは幅別に色分けをしまして、このデータを全て重ね合わせて作成しました。全て10,226分の1のサイズで作成しております。高速道路等の開通データにつきましては、若干の修正が必要であったり、さまざまな記号データの整理をしたうえでこの地図を作成しております。拠点からの距離について、今回はスタジアムの建設候補地の敷地の角付近、ここはエントランスゲートになると思われる所から、同心円を半径1km、赤い円ですが引かせていただきました。宅建業界では聞くとところによりますと、ロール距離80mにつき1分という整理をされているそうなので、15分の距離で換算すると約1,200mになるかと思えます。現在のエディオンスタジアムはアストラムラインの広域公園前駅から距離にして750m、徒歩で約10分、約40mの緩い坂道になっておりますが、こういったことを考慮しまして、距離約1kmを徒歩の想定圏内という形で同心円とさせていただきます。ここはこれで良いのかという議論があるかと思えますし、もっと幅広い諸条件を設定すべき、あるいは500mとか、狭いところにするべき、と色々な議論があるかと思えます。今回は1kmという同心円とさせていただきます。ここが私が苦勞した点でございますけれども、競合する施設、共存可能施設が周辺にどのように集積されているのかという点につきまして考えてみました。まず、競合・共存する可能性のある施設と、日本におけます、先ほどのスマート・ベニューの報告書の中で若干触れていますが、付帯施設、併設施設を調べました。それから先般、海外視察をしてまいりましたので、そこで得られた情報等を勘案して、大体5つぐらいのくくりといたしました。一つはスポーツの関連施設が周辺にどういったものがあるのかという観点から、スタジアム、アリーナ、プール、トレーニングルーム、フィットネスクラブ、サウナ、温浴施設、武道場、体育館、合宿所、こういったところが周辺にどうあるかというのを少し調べてみました。それから2番目に公共関連施設、ホール、スタジオ、会議室、交流施設、研修施設、カルチャースクール、図書館、学習センター、展示施設、博物館、自治体の集会・野外活動施設について、どういった分布があるのか調べました。3つ目が飲食・物販施設、これは場所によっては無数にありますので、今回は割愛させていただきました。それから、ショッピングセンター、娯楽施設、映画館といったものが周辺にどうあるか。最後に宿泊施設、ホテル等がどう散らばっているか。先ほど仙台で申しあげましたが、広島候補地でどうなっているのかということ調べました。一番初めに事例として挙げたのが、旧広島市民球場跡地、中央公園自由広場・芝生広場等、ほぼ場所が同じでございますので、仮に今回は旧広島市民球場跡地を同心円の中心に置きまして、集積がどうなっているか、あるいは人口の集積についてお示ししたのがこの表でございます。同様に、広島みなと公園ではこういう状況です。ここが同心円の中心でございます。人口の密集でありますとか、交通の状況等はご覧のとおりです。それから広島西飛行場跡地。河川の面積が若干狭くなっておりますが、ロケーションとしてはこういった仕様でございます。関連する施設は極めて限定的であるという状況でございます。これが福岡のイメージでございます。福岡は画像で言いますと、左側に福岡空港がございます。空港の先のさらに西側に博多駅があり、ここに商業施設が集積しています。それより少し離れた東側に公園がありまして、その公園の中にスタジアムがあります。但し、周辺に競合・共存する施設はほとんどなく、スタジアムだけがぽつんとあり、サッカーを観に行ったらそれで終わってしまって、周辺で遊んで帰ろうとかする場所はほとんどないと承っておりますし、住民との地域の交流という観点からも少し薄いという話を関係者から先般ヒアリングをさせていただきました。

このG I Fの商圈分析のメリットとして今後どのようなことが考えられるかという点につきましては、やはり多機能化、商業複合開発を考慮した需要調査、例えばこの拠点から何km離れた所にこういった需要があるのかというのをこのツールを使ってできないかという気がいたしますし、もう一つ、交通量の調査という観点からも立派なツールではないかと思えます。例えば、3万人規模のお客さんがゲームの開始前後1時間で本当に移動できるかというのをトランスポーテーションのアビリティ条件とするという観点から、この分析ツールは使える可能性があります。それから、駐

車場のスペースとしてどれくらいの規模があるのか、さらには道路の幅別の時間距離の計算にも使える可能性があります。それから若干応用になりますが、災害拠点としての可能性についてもこの地理情報は使える可能性があります。実施に仙台におきましては、3.11の震災があった時に、ここは防災の拠点として使われたわけでございます。こういう観点から周辺の地理情報と重ね合わせて列挙することもできるかなと。それからアストラムラインの延伸等に伴います交通効果についても検証ができるかなと。こういった観点から専門家との相談でございますけれども、こういう分析ツールを使ってしっかりと商圈分析をするのが望ましいのではないかとというのがこの参考資料のご説明です。

最後に総括的な話をさせていただきたいのですが、スタジアムの開発プロジェクトにはさまざまな論点がございまして。私たちが先般欧州を視察した時にも話したことの繰り返しになりますが、第1番目には第三者によるちゃんとしたマーケットリサーチ、商圈分析を踏まえたうえで整理することがたいへん重要である。2つ目が開発者、運営者がこの敷地でどのようなビジョンを描いているのか。このビジョンを明確に策定すること。これも2つ目に重要なことです。3つ目が実現可能性、採算性といったフィージビリティスタディと言いますが、徹底的な検証をする必要がある。4番目が規制の関係です。これに対応できているかどうか。先般の協議会場で規制でありますとかについては、一回整理をさせていただきましたが、より具体的な検証作業が必要と考えています。私の説明は以上でございます。

三浦会長

ありがとうございます。大きく2つあったかと思います。現在、候補地となっているところが5つあります。広域公園については、現状でもスタジアムがありますので、ご指摘いただいておりますけれども、他の候補地について標準的な施設整備をした場合に2万人と4万人のスタジアムが空間的に水平面にですけれども、その場所に収まるのかどうか。その場所の制約条件を見た時にどうかということで指摘がありました。もう一点は、多機能化・複合開発をする際に、各々の場所の現状、それからどのような可能性があるのか、あるいは色々なマーケティング等の調査が必要で、例えばGIFを使ってみてはという提案だったと思います。今からご意見をいただきたいのですが、大きく2つありますので、1点目の各候補地において2万人、4万人のスタジアムをとりあえず当てはめようという指摘がありました。こちらについて何かご意見があればお願いいたします。あるいは質問等でもよろしいです。

野村委員

私たちは2万人のスタジアムを造ってほしいという話を今までしたことがない。ユアテックススタジアムが出てきましたが、既に泉タウンという大きな団地があり、そこに地下鉄が入って、その後スタジアムができた。ユアテックスが素晴らしいスタジアムと言われても、私は現実に観に行ってみて良いとは思いません。ロイヤルボックスも一切できないので、非常に収入面においても影響するのではないかと思います。それから4万人も必要かもしれませんが、4万人の話はエディオンスタジアムがあるので、その話はしたことがない気がします。非常に規模的に良いのがあるのは、なぜ神戸をここに出してこないのか。これはスタジアムですけど、スタンドですけど、約25,000人が入るスタジアムですから、そういうのがなぜ出てこないのかなと感じました。

三浦会長

2万人、4万人とあります。3万人規模という話もありましたが、今回、各々の候補地の状況から、色々な工夫があれば収容人数等も変わると思うのですが、現状として2万人と4万人を示せば、その中間である3万人もおおよそイメージができることかなと思って出させていただいたもの

です。ですから例えば、今のような状況の中で中央公園等ですと3万人に増やすのは若干工夫がある。あるいは旧広島市民球場跡地についても、今の前提条件のどこかを崩さないと難しいのではないかという提案であったと受け止めています。

加藤（義）委員

仙台、鹿島とある程度こういう規模からこの土地でどうかなということについては、大方の目安がついて非常に役に立ったと思います。何処へ何を造るかは具体的には今からやることにして。広島西飛行場跡地に高さ制限があるのですが、125mのスタジアムを造るわけではないから、仙台や鹿島の高さは何mぐらいですか。

日本政策投資銀行

カシマスタジアムの最高点は49.5mです。それから仙台は27.5mで、30mを切るぐらいの高さです。

加藤（義）委員

制限はあってもその範囲内に入れば、デザインにもよると思いますが。高さをもう少し使えば、色々な多機能化にもできるのではないかと思います。今回は面積と収容規模だけをお伺いしたということにしておきたくて、後の多機能化、複合等については、今から具体的に進んでから検討すべき事項なので、ある一面で見られただけで、いま議論をしたくはないと思っています。

もう一つは、複合開発など色々な視点があるので今から議論することではありますが参考までに、商業地域と住宅地域というだけに分けてある評価がありますが、例えば、公園であればスポーツ施設の関連地域とか、あるいは飛行場跡地ならスポーツ部門をつくろうかという市の計画がありますね。そういう意味であまり住宅、商業だけに複合というのを拘ることもないと思いますので、今回ここは一つの考え方としてお聞きしておいて、今から議論すべきことかと思います。それから道路の計画、あまり現状だけの視点で優劣を並べるのは時期が早いと思います。まちづくりという意味ですから、道路も当然造らないといけないかもしれません。駐車場だって造らないといけないかも。まちづくりの観点から見れば、サッカースタジアムを核にしてどうかという展開を今からやっていくモデル、見方として今日は聞かせていただきました。

日本政策投資銀行

ありがとうございました。先ほど三浦会長からもご説明がありましており、標準的に諸前提を置いた場合に、どの程度のスタジアムが各々の敷地において建設可能であるかという所を試算してみたのが実際でございます。したがって、何ををもって標準的とするかという諸前提の置き方については、今後より詳細な検証が必要でございます。例えばですけれども、スタンドの傾斜角度、これによって高さは20mや10mという所は、大いに関係性がある訳であります。ピッチの幅とか、それに対する客席の奥行をどの程度取るかによっても、収容人数に大きく影響してきますし、今回は南北にスタジアムを配置しましたが、少し東西にとってみようかとする、全体も変わってくる。屋根の高さも20m、10mに揃えるのか、あるいは高さ制限に引っかかる所だけ屋根を外して、かからない所だけ高さを少しかせいでみて、収容人数を計算してみてもどうか。こうしたさまざまなバリエーションの検証ができるわけですし、より詰めた設計の所で検討すればよろしいのではないのでしょうか。あくまでも標準的な姿とはどういったものかというのを頭の体操という形で今回お示ししたという位置づけでご理解いただければと思います。それからスポーツ施設につきましてもおっしゃるとおりでございます。海外の事例を見ている、サッカーを観に行く前後の時間でどう余暇の時間を過ごしたらよいかということから、さまざまな機能、あるいは複合的な開発の検討がされているのが実態でございます。従いまして、住宅であります

とか、ショッピングセンターに拘るつもりは全くなく、例えば、サッカースタジアムの横にフットサルのコートがあっても良いわけです。あるいは、サンフレッチェの選手のサブグラウンドがあり、そこに行けば試合のない日であっても選手の練習を観ることができるなど、さまざまな開発の仕方があり得ると思いますので、そこはおっしゃるとおりと考えています。

川平委員

今日は日本政策投資銀行さんにこういったご提案をいただきましてありがとうございます。これまで我々の議論の中で、敷地面積や機能面ということの話をしながら、場所を決めるためには最低限こうした多機能や複合開発が必要だろうという認識を我々としては一定のものは持ってきた。当然、経済合理性を考える時には当然こういったものが気になるので、どちらにしても、こういった視点での考え方というのは必ず必要だろうと。私としては非常に良いご提案だったと思います。

今まで何万人が良いかという議論はしていませんが、1つのたたき台として、今ある敷地の中で考えられるとすると2万人はできるとか、2万人はできないとか、こういったものがないと我々の議論は進まないわけですから、こういった意味でこうした考え方は良かったと思うし、次の資料2に今後の調査の方向性が今からされるのですが、私はそういった方向性の中で考えていけば、これまで9カ所あったものを5カ所に一般的な制約条件で絞ってきたが、それらをさらに絞っていくためには、まさに4項目のところを詰めていけば絞れるのではないかと考えています。

高木委員

今と同じことになるかもしれませんが、サッカーをいちスポーツとして競技に捉えるのかというところで、もっとスポーツを未来に対応して、1つの例としては、複合開発ということがございますが、そういうことを目指すのであれば、そういう発想の中で、取り敢えず急ぐということで球場を造るということはある得ると思いますが、将来のことを含めて考えておかないとこの後問題になるのではないかと伺っていて感じました。複合開発を目指すのであれば、もう少しそういう構想を組み込んでおかないと、またすぐに手狭になるなどの問題が起こるのではないかと思います。

日本政策投資銀行

おっしゃるとおりのことしかコメントできないのですが。

将来の可能性を考慮したスタジアムの整理を検討するというのがもっともでございます。現在の需要に基づいてすぐに決めていいかという、多分そういう話ではないかもしれませんが、需要、環境の変化も大きくあると思いますので、そこも考慮した施設面での柔軟な設計思想でありますとか、そういったところも当然考慮したうえでスタジアムの規模については厳正な検討が必要と私も考えております。

永田委員

サッカースタジアムについては、多機能化という形で造っていかうということで、我々委員としては認識したと思います。複合開発という部分になりますとインフラ、これは我々だけの手には負えないと言いますか、行政、自治体の範疇に入ってきますので、こういった部分を市の当局がどう考えているのか。そこで複合開発として、その地域の方々のニーズやウォンツといったものに合致するのかを考えないといけないのではないかと。そういうことも、もしかすると我々に課せられているのか、課せられていないのか不明な部分もあります。広島都市圏の中でまちづくりをしていく中で、サッカースタジアムをコアにして街をつくっていかうという形であるならば、いま日本政策投資銀行さまのお話を聞いた中だけでなく、市・県がどういう考えをお持ちなのか

ということも必要。そうでなければ、我々は今5つ残っている中で、何処にした方が良いかと言ったとしても、行政と全く違う回答に陥ってしまう可能性もでてきますので、まずはこのことが重要かと。複合開発をするうえでは地域の方々、実際にそこで商業を営んでおられる方々に対してのニーズ、ウォンツ、それからどういう未来像を我々は提案できるのか。これはサッカーを通じての地域の開発、スタジアムとしてコアな部分を提供するのが我々協議会の集まりであって、そこから先の複合開発というのはスタンスが違ってくるのではないかとのイメージを持っています。これについてはどのような共通認識を持った方が良いのでしょうか。

三浦会長

最初9つあった時に、行政側から各々の場所についてどのような計画があるのかを話していただいた。具体的なイメージがつくような説明もありましたし、抽象的なものもあったかと思います。今回、大きな意味でスタジアムを造るということを1つのきっかけとして、広島都市圏全体を高めていけるようなものにしたいという思いは皆さんあると思います。この協議会がどこまでそこに言及できるかは、なかなか難しい部分もあると思いますが、県・市のまちづくりの方向性とスタジアム建設との整合性やどこか牽引できる部分があるのかということは考えていくことだろうと思っています。今後の検討について、例えば、いま日本政策投資銀行から表の形でいま画面に整理されていますが、これだけではなく、協議会で議論してきたまちづくり全般との関わり、あるいは何ができそうか、あるいは私からも言ったと思いますが、世界を睨んだ場合にどういう位置づけができるかということろまで含めて、各々の場所でできることを考えていくことになるだろうと思います。そこまでは難しいだろうというご意見もあるだろうとは思っていますけれども。

永田委員

考えていくうえで、日本政策投資銀行からご提案もあったように、サッカー、サッカー選手達という形で協調的という部分も1つの案かと思いますが、「サッカー」プラス「サッカーと共存できるスポーツ団体」などのご意見も聞きたいと思いますが、そういった部分で、スポーツを核にして、サッカースタジアムというものでコアにするわけですが、サッカーという競技だけではなく、色々な競技団体という形もサポートしていくと言いますか、他の競技団体との連携・整合性も今後必要になってくると感じています。

三浦会長

そこもやはり考えていく。せつかくできるということになると、それをできるだけ活用できれば良いと思っています。

小谷野委員

私は基本的に川平委員と加藤（義）委員の意見の合体みたいなものを考えているのですが、大きく考えるとこの4つの案分ぐらいになるだろうと思います。一方で加藤（義）委員がおっしゃるとおり、現状の場所で一体どんなものができるのかと、多機能化のもとやるとして。まずしっかり固めたうえで、そこから先には需要分析ですとか、スタジアムができたら地元の人はどう思うかとか、そこと意見集約していくという、最初の敷地面積や環境のところをしっかりと固めたうえで、その次で複合開発ですとか、調査すべき事項に徐々に入っていくという感じかと私は思っています。と申しますのも、先ほど野村委員から、我々は2万人のスタジアムを最初から求めているというお話がありましたが、例えばの話ですが、旧市民球場跡地の場合、我々が想定している3万人というのは、地下の構築物を除くのに10億円をかけて、武道場のところも潰す前提で、ある程度のスタジアムの無理のない勾配でも3万人は入ると。これは一級建築士の方々が

っしやられているので、コストや構造も含めて3万人のものを造ると。それで北側に伸ばしたとすれば、伸びた分だけ施設の中で、会議場なのか、都市公園法の枠組みの中でできる多機能化が可能であると考えていますので、こうした需要分析の準備をすることは良いことだと思う一方で、やはり何らかの形で、建築士を入れて図面みたいなものを引いて、それぞれの地域において、どんな絵が描けるかというのをやるのがまず最初かなと私は考えます。その部分が固まらずに、2万人前提で需要予測したのがこうだとか、4万人前提で需要予測したらこうだと言っても、絶対にそれは納得しない人はいるでしょうし。やはり敷地面積、環境、多機能化というのが、建築士の意見も聞いたうえで、どんなことができるのでしょうかと。それでお金がいくらぐらいかかるのでしょうか、というところから始めていくのが私は良いと思います。それから逆に複合開発や今後調査すべき事項の中で、一つ入れないといけないと思っているのが、お金がいくらかかるのかという話と並んで、タイムフレームです。例えば、交通整備するとしたら、大体何年ぐらいかかるのかと。あるいは駐車場を整備するとしたら大体现実にこれぐらいかかるのかとか。お金と実際に建築する場合のタイムフレームみたいなものを明らかにしていって、この場所に造るとしたら何年ぐらいでペイできるのかといったものを出していくのが私は良いのではないかと思います。ということで、私は川平委員と加藤（義）委員の意見の合体というか、中間のような意見です。

山根副会長

2万人というのは言ったことがないという意見がありましたが、それでは、何万人ぐらいのものを造るのが広島のスッカースタジアムとして良いのか。どれぐらいの規模を造るのかというのを並行して考えないといけないのではないかと。それと、どこかを壊すとかいう色々な案もありますが、まず今までの話では、跡地を利用する、あるいは可能性のある土地を利用するという案で5つに絞ったと思う。だから武道場まで壊すというのはもう跡地ではないですね。もうひとつ踏み込んだ話になりますよね。跡地プラス。ですからそれはもうひとつ次の議論になろうと思います。跡地を利用するという話、あるいは市民球場跡地である。これが跡地ですよと、そして空き地がある、こういう活用する場所がある、それにはどんなものが今はまるとおっしゃっていた。そうですねと。それで我々はどれぐらいのものがいるのかと、どうしてもそれをしないといけないのなら、ここにはめるのかどうするのか、ということに次はなってくる。両方から攻めてこないと収まらないのではないかと。本当に広島市のスッカースタジアムはどれぐらいの規模を造るが望ましいのかというのを、サンフレッチェ広島側だけでなく、需要予測をして、科学的にというか、やはり専門家の知恵を借りて、どれぐらいの規模が良いと、大体満員になると、そんなことで、両建てで進めないといけないのではないですか。

加藤（義）委員

日本政策投資銀行には色々な情報をお持ちなので、どうかなと思うのですが、もし次のことを考えられ情報があるのならば、その時に、今言われた多機能化と複合という意味、複合というのは、今までヨーロッパとかのを聞いて、商業とかレストランとかになって、教育、文化、その複合、スポーツもあるし両輪だってあるわけです。色々なものの複合があるわけで、あまり先入観に囚われずに、我々はどこの地域に何を造ったときは、人は集まってくるから、人の動線、集まり方があるから、どんな施設、複合にしたらよいかというのは、己からと決まってくると思う。夜景や都市なら商業かもわからない。文化でも教育でも良いではないかというのがあるわけです。この多機能と複合というのは非常に難しいと思うのですが、そういう中で、政策投資銀行さんが色々今まで知識があるわけだから、教えてもらえればありがたい。逆の言い方をすれば、私達もそこを気を付けて、多機能や複合を考えていかなければいけない。単に候補地に一番相応しい複合施設というのは何かというのを今から考えていく必要がある。今日のこっちの情報は、敷

地面積と収容規模だけいただきましようと言いましたが、今の段階で決めつけるわけにはいかないという感じがいたしました。

山根副会頭

元々20 数試合しかない、使えないということですね。だから複合、多機能を考えていこうというのが、最初からのお話でしたね。そういう意味で、今からこのものを造る支援をしていただく、あるいはお金を出していただく、さまざまな方から協力を得ようとするならば、多くの人が使えるものというものが、一つの前提に置かれなければいけないのではないかと。多くの時間も使えるという点も含めて。そういう意味で、多機能、複合を併せて考えていかないといけないと思う。

川平委員

我々に課せられた限られた時間の中で、多機能化か複合開発かまで全部考えられれば良いのですが、時間的な制約の中で、多機能化はある程度検討しなければいけないが、複合開発については、そういった可能性のある立地なのか立地でないのか、その辺りをある程度を踏まえたうえで判断すれば、実際にここで造ったものが、5 年先、10 年先に追加的に開発される可能性がある立地かどうか、そこは考えたおかないといけないと思う。それともう一つ規模の問題も、最低限必要なのが2 万なのか、3 万なのか、4 万なのかなかなかこれは結論が出ないわけですが、最低限のものは造ると。それが今後拡張性があるということを期待できる立地なのかどうか。そういう考え方を持つと、もう少し話はし易いかと思います。

永田委員

先ほど、川平委員、山根副会長からお話がありましたが、それプラス輸送面。駐車場ではなく軌道系の交通を造った場合に、どれくらいのお金、要するにコストがかかるのか。例えばですが、広島みなと公園とか広島西飛行場。明らかに現状でも生活道路して渋滞しています。そういった中で、どのくらいのものを造るためには、どのくらいのコストがかかるのか。さらに言えば、（アストラムラインの）広域公園延伸化という形になっていますけれども、今議論されていますが、これが計画通り行われるのかどうか。例えばサッカースタジアムはこれくらいの金額がいる。インフラでこれだけかかったのでは、まちづくりとしては、もしかするとアップになる可能性もある。そういうことも考えていかざるを得ないのかなと。ちょうどマツダスタジアムの事例がありますが、マツダスタジアムは140 億円かかっていると聞いていますし、周辺のインフラ整備は70 億円かかっていると関係の方から伺っています。それがサッカースタジアムに関してこれくらいのスタジアムを造って、インフラにはこれくらい必要で、公共交通にはこうした軌道を造らないといけないとなった場合に、皆さんどう考えますかということをまずご提案するようなものを、明確に根拠となる数値をつくる必要があるかと考えます。

野村委員

委員の皆さまには、これをお配りしているのですが、19 日にシンポジウムを開催しました。そこで色々なことをやりました。中央公園の場合、みなと公園の場合、西飛行場跡地の場合と書いていますが、中央公園の場合、一番問題となりますのが、基町の市営住宅、これが大きな問題点になってくると思われます。アクセスについては非常によろしいのですが、先ほど話がありましたが、スタジアムを東西に造るということは、サッカー場を造るうえにおいては、極力、南北に向けて造るようなことがあります。何故かと言いますと、前にも話しましたが、西日が入って、それを受けるゴールキーパーは目に入って大変なことがあるということで、条件的に難しいということがあります。それから広島みなと公園の場合は、隣にマンションがありまして、近隣に住宅があるということで問題点がある。またアクセスの問題ですが、広島駅から電車32 分、横川

駅から47分でありまして、日頃から交通状況は渋滞しているというのが現状でありまして、意外と広島駅から時間がかかるといったところです。4頁を見ていただきますと、広島西飛行場の現状の写真が出ておりますが、交通状況は4頁の下の方に載っておりますが、非常に交通渋滞を起こしているのが現状です。これらを参考と思いまして、皆さまにお渡しいたしました。今後については、なるべくある程度絞って、そして先ほど山根副会長が言われましたようなことを進めていって、具体的な多機能化、それから複合化を含めた検討をしていただければと思います。

三浦会長

今回提出いただいた資料は、今後議論する時のイメージ、さらに詳細については詰めていくというものだと思います。各々の場所が持っている状況、それから先ほども話がありましたが、現状を打破するために何ができるのか、あるいはそのためにはどのぐらいの時間と費用がかかるのかということも踏まえて議論することになるだろうと考えています。

高木委員

議論とおっしゃいますが、議論になっていないと思います。多様化の時代ですから、どこかで何かの気持ちが一つにならないと、どうしてもサッカースタジアムを造りたいという熱意が届かないとファンをもっと増やすことが不可能だと思う。やはり将来のことを考えますと、もっとたくさんファンのつくりたい。ヨーロッパの例を伺いましたが、ヨーロッパではナンバーワンのスポーツ。日本はそこまでいっていない。でもそれをナンバーワンにする。家族を巻き込んで、みんなが楽しむスポーツに育てるんだと、この委員会の強烈な情熱と言いますか、是非これを造りたいんだという、いつまでも並行作業でまともっていかないと感じるのですが。

三浦会長

そこは必要だとは思っていますが、今の段階では難しい。

加藤（義）委員

先ほど野村委員から説明がありましたけれども、例えば色々な視点が、例えば西飛行場跡地とかの話では、交通渋滞の問題があるわけです。現実にはそうでしょう。まちづくりという観点から私達は外してはいけないと思う。それから思えば、広島西飛行場跡地も都市計画の中に南観音道というものがある。マリナホップの辺りまで貫く道路を造ろうというのが地図に書いてある。計画というのが正確な要因かどうか分かりませんが、図面の上にはある。こういうことで何かやるならば、道路だって造らなければならない。ここで窮屈な思いでこうなるけれども、その中で最低限こんなものしかできないから、こんなものを造ろうかというのでは、明日から工事しようかというのなら良いが、将来の広島の街を考えた場合には、やはり併せてまちづくりも一緒に織り込まれて、あまり細かいことに拘らない方が良いのではないかと。これは現状ということで聞いておけば良いと思います。

三浦会長

現在はこういう状況。おそらく今の状況の中でスタジアムを造るとアクセスとして問題がある。もしあそこに造るとすると、どういうアクセスの改善が必要かというのは考えないといけない要素になると思います。それは今後、次年度に向けて詰めていくことだと思っていますし、そもそも私たちはなぜ議論しているのか。サッカーというものをコアとして、言うならば、広島都市圏に住む人々のスポーツを通じた楽しさ、幸せになるような部分を膨らませていくことが、まず第一義的になると思います。それをまず念頭に置きながら、現実的にスタジアムを造る場合には、先ほどもあったように規模の問題が一番大事な部分、考えていかなければいけないと思います。

その時はサンフレッチェ広島として必要な収容人数もありますし、今後スタジアムを造っていく中で、まちづくりという意味でスタジアムが果たす役割を考えていく時の人数もある。そこがやはり実は当初から議論を深めなければならなかったのですが、深めていくことができていないので、その部分について考えていこうと思っています。年度が終わるということで、中間とりまとめに向かわないといけないのですが、かなりまだまだ具体的な規模、場所の雰囲気が出てきたことで、やらなければならないことがだいぶ見えてきたのかなと。

加藤（厚）委員

私から一点だけ、合意させなければならない点があるのではないかと思います。まず何万人規模かをはっきりさせて、多機能化で進めるというのは良いと思うのですが、この複合化ですよ。複合開発の方が採算性とかという面では良いと思うのですが、そもそも開発の余地がないとか、かなり限定的だという場所が多くて、これだと最初から絞られてしまうような感じの条件だと思うのですが、これは全く開発の余地はないのでしょうか。

三浦会長

今回は日本政策投資銀行が現状でこうではないかということで、この協議会として認めたわけではないというように見ていただければと思います。当然今の施設の中で、建物を設計上の工夫をすれば何かできるであろうというのは今後の議論する部分であると思います。

塚井委員

当初からアクセスの話がされていたというように聞いていますけれども、そちらについてということでこの席にいるのだろーと思っていますが、今日色々お話しができましたように、そして重要なお指摘は小谷野委員からありましたように、交通需要予測と言いますか、混雑の方ですね。考えるうえではこれは当然一番大事なことになってきます。2万と4万では倍違うわけですから、それは試算しても全く変わってくると思われますし、その辺りは妥当な数字を、恐らく今日、三浦会長がおっしゃいましたが、この間の数字が恐らく妥当なのだろーと私も想像していますけれども、それを決めるということではないかと思えます。それからもう一点は、図面の話が出てきましたが、これもかなり細かい話で、高木委員のご提案に沿う形ではないのですが、多機能にするとどれぐらいピッチ以外の部分に面積がいるのか分からない。そういうスタジアムをもし造ったとすると、そういうのを込めて恐らく図面という言い方をされたと思うのですが、サッカースタジアム本体として欲しい機能が当然ありまして、その機能には当然面積が付いてくるわけで、これだけのスペースはこれに使われますということになるはず。そういうものを組み込んでいった時に、あとどれだけ余るのかという見方をするのか、逆に必要なものを全部組み込むとすると、全体ではこれぐらいの大きさになります。この辺りはどういう図面を引くかにより変わってくるとは思うのですが、そういう意味で図面もA案とかA'案とかいくつか出てくるのが適正なのかなと思っています。その辺りを、実は若干上の議論にはなりますが、需要予測にはそれほど、多機能化したからといって、集客人数がものすごく変わってくことはないと思うので、恐らく交通の話ではないと思います。むしろそれがひかれて初めてこのスタジアムが広島にとってどういう意味があるのか、ようやく夢が描けるというか、ここを使って街がどういう方向性に進むのか、ちょっと順序が逆なのですが、細かい話をしないと場所ごとにかなり、今日もざっくりした言い方ですけども、とてもスペースに余裕があって、およそどんな図面を書いても大丈夫そうな所と、そうでもないように見える所とありまして、でもそうでもない所も本当にそうであるかは私には分かりません。本当に今日当てはめていただいたこの大きさが正しいのか、もしくははできるのか。その辺りが本当に知りたいところでありまして、その辺りが出てくると、もう少しどういう夢が描けるかという話も具体的になるのかなと思って、特にこれといった意見で

はないのですが、少し精査いただけるように今後もこの方向で進めていただければ良い成果が出る委員会になるのではないかと思います。

野村委員

2万、3万、4万と先ほど出ていましたが、この会議の何回目だったか忘れましたが、日本代表の試合を行うのであれば、4万人以上の個席の屋根の付いたスタジアムでないと、日本サッカー協会は認めません、それからオリンピック代表とか、なでしこなら3万人以上という一つの物差しが決まっております、2万人ではどうしようもないと私が発言した理由です。実際に去年のサンフレッチェ広島の試合でも3万人以上入った試合はあるわけですし、実際にいつも3万人入るかと言われればそうではありませんが、昨夜、ACLの試合を行ったのですが、雨ではありませんが夜だったということもありまして、ウィークデーの夜で良い試合をやっているのに、6,000人しか来ない。いかにアクセスが悪いか。試合の内容は非常に良かった。6,000人しか来ない、選手は一生懸命頑張っているのですが、あれではちょっと選手に可哀想だなと思った次第であります。サンフレッチェ広島は自分のところで育てた選手で頑張っているのです、今のうちにこれを早く実現してやるのが、選手たちが他のチームに逃げないのではないかと思います。これを早く実現することによって、他に行くことを防止できると思いますし、今日までは日本政策投資銀行に提案いただいてきておりますが、あと1~2社ぐらいの提案を受けてみてはいかがでしょうか。

三浦会長

主として使われているサンフレッチェ広島の状況は、当然皆さまもご存知で、彼らの頑張りをどう将来の方向に結び付けていけるかというのも考えていかなければいけないと思います。その後の件については、予算的なこともあると思いますので、またちょっと考えさせていただければと思います。

資料の順番が前後するのですが、各々の場所の状況について、先ほども野村委員から説明があったこともありますので、資料の3番目の部分、前回の協議会においてガンバ大阪の説明において質問があったことに関連して、小谷野委員から説明をしていただけますでしょうか。

小谷野委員

前回の協議会において、ガンバ大阪からお話しいただきまして、非常に時間が限られておりましたので、事務局を通じて各委員から質問を募ったところ、4つ質問がありました。そうした中で、4つの質問というのは、アクセスの内訳について、指定管理業者について、場所に対する議論がどうあったのか、それから建設費が割と安いように見えるがどうかという話がありまして、各々についてガンバのスタジアムを推進されている委員の方から正式に回答がありました。まず最初の吹田市立スタジアムへのアクセスの中身がどういった内容で出されているのか。モノレール、車両、バスの利用など乗り物別の来場者数の内訳予測をいただきたいとの質問がありまして、回答はURLというのがありまして、これは実際に議論で吹田市の議会で議論された際の資料がここです、資料を読み上げさせていただきますと、これ4万人のスタジアムですが、4万500人が仮に来た場合の交通手段別の来場者数および車両台数の想定ですが、自動車（自家用車を含む）が4,900人、自動車台数2,000台を想定しています。自動車で12%、それからモノレール16,400人ということで40%、それからバス（路線バス・臨時バス）がバス台数延べ200台ということで11,900人、29%です。それからバイクが1,800人で4%、自転車（自転車）が4,500人で11%、徒歩が1,000人で2%、それで合計の40,500人ということでありまして、かなりモノレールとバスの比重が大きくなっています。自動車は4,900人で台数2,000台ということですから、1台あたり2~3人とかなり乗り合いを一生懸命やってこの人数をはかせるということで、これは私の私見ですが、自動車の想定台数を増やして駐車場を用意した方が良いかとは思いました。私見は

さておき、そのような形でやはりモノレールとバスが中心、特にモノレールが40%ということで軌道系は大事だと思います。そして、指定管理者がガンバ大阪になった経緯をお聞きした。これは、私が会議の中で第3セクターで運営せず、ガンバが単独になった理由は何かという点。この場では確認してから答えるところであった件だと思いますが、回答として、大規模な公共施設を自治体が所有するのは、維持管理の大きなリスクとなるため、建設の前段階でその管理方法が検討されました。その結果、ガンバ大阪が指定管理者となることを条件として進めることになりました。どちらかと言うと市や県の意見を経営に入れるために、第3セクター的な運営でどうかという話を以前、私はしたことがありましたが、逆にガンバの場合は、スタジアムの収益性が仮に上がらなかった場合、誰が責任をとるのかという観点を重視して、ガンバ大阪が単独となった。実はガンバ大阪は儲ける為というより、経営に対する責任を重視した意思決定が吹田市ではなされた。

また、3番目。この場でもかなり場所の議論がいろいろと起きてきていますけれども、実際、吹田市がサッカースタジアム建設に関して、この場所です承された経緯、場所設定に当たっては、苦労がどのくらいであったかという質問が他の委員の方々からございました。回答としては、「場所の選定に当たって、吹田市内に大きな平地がなかったため、吹田市の候補は比較的早く決まったと感じています。候補地よりも建設条件等の交渉に大きな時間がかかりました。」今の万博の公園の中のスタジアムの横しかなかったということで場所はすんなりと決まったということです。

そして4番目の、建設費の4万人で140億円となると、例えばマツダスタジアムと比較すると安く見えるけれども、どうなのかと。140億に抑えることができた工夫や内容について伺いたいということで、これは民間で設計から施工まで一貫して業者を選んで行ったことがコストの削減について大きかったという御回答を得ています。いろいろ交通手段の数字を引用しました吹田市の議会で議論の元になった資料等は、我々がスタジアム建設をする際にもどういうところを議論しないといけないかというところを見る上で、参考になると思います。以上です。

三浦会長

ありがとうございます。何か今の説明に対して質問等ありますでしょうか。

前回の協議会では、今お話もありましたし、マツダスタジアムの建設に関しての資金のことに質問がありましたけれども、これはまだ資料がまとめられておりませんので、また次回ここで説明する機会を設けたいと思っています。

もう1つ、資料4として同じく小谷野委員からヘリポートの関係があったと思います。そちらの方の説明をお願いします。

小谷野委員

これは前々回だったと思いますが、ヘリポートや空港の近くにあまりサッカー場や野球場はないということで、1番近いところでも2kmあるかないかというところで、皆離れたところがありました。やはり事故等が起きたときのことを想定して、運営上のマニュアルをJリーグが要求してくるかもしれないという発言を私がして、自分で宿題を出したようなかたちになったが、リーグから我々が得た情報と既にヘリポートの横の広島スタジアムでJリーグを開催したこともありますので、彼らも場所のことをそれなりに知っています。実際そこにスタジアムを造るとしたら、どのような運営マニュアルになるとかJリーグの施設担当、クラブライセンス事務局。いわゆるエディスタに屋根がないや洋式トイレが少ないということで我々に制裁を科している人ですけれども、彼のところに質問を出したところ、文書が返ってきました。ヘリポートと隣接した用地についてということで、私見を交えず読み上げさせていただきますが、「前提としてサッカースタジアムは、大規模集客施設のため、公共交通機関、鉄道、地下鉄、市電等による輸送能

力を必要とします。スタジアムが郊外にあり、かつ、この輸送力が低い場合、試合の前後にスタジアムの周辺道路が渋滞することは、エディオンスタジアム広島の実態から御存じのことと思います。仮に周辺道路の渋滞が緩和されたとしても、バスと車で3万人の輸送計画を策定することは困難と思われます。」これは先程の軌道系の話です。「以下、緊急出動を要するヘリポートと隣接する用地についての懸念点を記します。

1、常時、緊急出動を要する施設とスポーツイベント会場が隣接する状況においては、イベント競技自体が常に不安定な状況下に置かれます。緊急ヘリコプターは、各地で起きた事件・事故・災害に常に対応できる体制が求められるからです。

2、Jリーグの試合はスポーツエンターテインメントの1つであり、スタジアムは人々が非日常的空間を楽しむために集まる施設です。緊急ヘリコプター離発着の音や救急車のサイレンを敢えて近づける発想は乱暴と言えるのではないのでしょうか。

3、2012シーズン、ホーム最終戦で、J1優勝を決めた試合のように、特別な試合において、Jリーグや報道各社は、スタジアムを上空から空撮します。試合後に花火を打ち上げるケースも珍しくはありません。無論、緊急出動が優先されることは当然ですが、こうした影響を勘案するとスタジアム建設の候補地の選択肢の中に緊急出動を要するヘリポートが入ることは考えられないと思います。

4、東京都世田谷区にある駒澤オリンピック公園総合運動場陸場競技場は近くに国立病院機構東京医療センターがあるため、夜間照明を付帯することは出来ず、ナイトゲームができません。医療関係への騒音光害の影響に配慮したものです。スタジアムの歓声や華やかなイベントは不快な影響を与えてしまいます。以上。

ということです。恐らく、これをもってヘリポートの傍はだめと言えませんが、相当いろいろな手当てをした上でないと、難癖付けられる可能性が高いということで、おっしゃる通り、街づくりのなかで、いろいろなやり方を考えられる一方で、マニュアルを造ればよいという次元の話ではないということで、参考までにということです。

三浦会長

今回、政策投資銀行の方で資料をいただきまして、これまで9回を数える協議会の中で重要なことを議論してきましたが、最終的な取りまとめ報告に対して、まだまだやらなければいけないことが見えてきたことを再認識をした。施設のレイアウトを見たりすることが出てきたと思います。資料2のところにも私の方でメモを書かせていただいております。今後の方向性として書いております。時間もないので、全てとは言えませんが、来場者の需要予測に基づく、スタジアムの規模の検討、先程ありました、例えば3万や4万という数字がありますが、まずはそのところについて、やはりしっかり考えないといけないと思います。ここではマーケティングということも書いてありますが、そもそも今回私たちが議論をする発端であった、サッカー並びにそれとコミットするスポーツ全体というものが、どれだけ私たちに対して力を与えてくれるのか、オリンピックを見てもいろいろなドラマがあって、それによって人々は感動しましたし、一体感が生まれたと思います。そういったことができる一つの舞台を私たちがどう造るのかという面で、どれだけの規模というものがそこにあれば望ましいのかということをややはり考えないといけないと思います。そういった面をまずは進めていくということと、それぞれの場所の制約。例えば制約があったときに、それはどう乗り越えていけるのか。先程あったように施設の設計上の工夫、そういったことも専門家を交えて考えていくことだと思います。そして、造るに当たって、どういったコンセプトや地域のビジョン。これはそれぞれの地域で、県や市がその場所を今後エリアの中で位置付けていくかということは話をしてきたかと思いますが、そういったものの整合性やあるいはけん引する力を持てるかどうかについて、考えていく。その中で機能をどう付加するか、複合開発をどうするかということが出てくると思います。複合や多機能化に移るとテクニッ

ク的になってしまいますので、根本の方も忘れず、そこで何ができれば、地域の人々や広域の人々に対して、何が提供できるのかということを考えていかなければいけないと思います。もちろん、今回議論することとなった、アクセス。規模が大きくなればなるほど、そこで沢山の人がその場所に集まってきます。その人たちをどう集め、どう帰っていただくのか、あるいは回遊していくのかということは考えないといけませんし、場所によっては近隣でお住まいの方もいらっしゃると思いますので、そういった方との関係性についても考えていかなければいけないと思っております。

それぞれを考えた上で、こういったところがあって、何が出来そうかということは、今回はまずとりあえずたたき台として、示しましたが、まだまだです。この後にはしっかり詰めていかなければいけないと思うし、さて、その規模とか、あるいは機能等が決まってくつつ、その両にらみでコストをどうするか、それをどう解決していくのかということですね。返還等もありますけども、そういったことも議論していかなければいけないと思います。で、こういったことを、今後はしっかり進めていこうと思いますが、これらを進めるには、やはり、専門家を招いてですね、先ほど複数の意見ということもありましたが、その辺りも含めてですね、考えて、状況を調べて出していければと思っております。そういった中で、今回は3月、もう年度の最後ですけども、中間取りまとめをしないといけません。で、中間取りまとめとしては、これまで私たちが議論してきたことをもう一度振り返るということをまず一点、回数を重ねてきてですね、例えば最初の頃にやったことを、やや印象として薄れてるところもあるかと思っておりますので、その辺りも踏まえて一度整理をし直していくということ、もう一度軸をはっきりさせるということがあると思います。それとともに、最終的な私たちが導くものに関して何をしないといけなければいけないのか、先ほども私のほうでお話をしましたが、色んな候補についてより詳細に詰めていき、それから私たちの中でしっかり意見の交換をして、いわば、場所をある程度絞っていくということになると思います。そういった中で必要なことについては、取りまとめを次年度にやらなければいけないこととして挙げていきたいと思っております。それらを今後は進めていきたいと思えますし、それからありましたように、外部の専門家ということですので、その辺り、ある程度予算を使うことですので、その予算との関連でどこまでできるかは考えていければと思っております。それが、次回に向けての私の考えです。

加藤（義）委員

すいません、今日の御説明をいろいろ聞いて、仙台の話とかいろいろ聞いて、地図を見ただけでは、雰囲気、どうも雰囲気が分からないんですね。一度、野村さんとか小谷野さんもよくご存知の方の推薦で、どっか見学にいったらどうかと思うんですが、みんなで。それで、できれば試合のある日か、ない日でもいいんですが、何かそんなことができたら、お話を聞くのがイメージが、共通のイメージが沸くんじゃないかと思うんですね。もう一点、スタジアムの今後の検討の中ですね、第三者からのマーケティングもいいと思う。もうひとつ何か専門機関か自治体でイメージデザインができたらいいんですがね。その場所場所で、候補地ごとに。詳しい設計は無くても、こんなものが、素敵なものができそうだといい。

三浦会長

はい、見学に関しては、前々からできればと思っていましたので、予算がどうなるかということと、私たちである程度負担して行けるかどうかということも踏まえてご相談をさせていただければと。できれば行きたいと思っています。それから、具体的なパース図、イメージパースということだと思うんですが、その辺りはコストの問題ですね。小谷野さんの、実際サンフレであのようなパースを描くというのは結構お金必要だったんですね。

小谷野委員

そうですね。

三浦会長

だから、その辺がどこまで予算との兼ね合いでできるか、できる範囲でイメージできるように詰められればいいかなと思っています。僕たちが予算を持っているわけではないので、相談をしていければと思います。

小谷野委員

パースは確かにお金がかかる部分がありますけども、先ほど高木委員からありましたとおり、スタジアムが、こんなのできるんだみたいな形で、前向きな議論をしたり、あるいは、市民の方々に通って、ポジティブな感情を起こしていくという意味では極めて有意義な作業だと思いますので、この辺は予算をとって是非やっていただければと思います。やっぱり数字のたたき合いとか理念のたたき合いだけですと、やはり夢がないというか、今後市民の方々や、お金を集める過程で色んな方々の賛同を得ていく上で、やっぱりポジティブにならないといけないということもでてくると思いますので、パースは良いと思います。それから、今後の調査の方向性は大筋でいいと思うんですが、繰り返しになるんですが、これをやっていく際に軌道系の整備とか、あるいは道路の整備といったコストとその時間軸については触れる必要があると思うんですね。先ほどのＪリーグのヘリポート隣接支援に関する議論もそうですけれども、解消するために一体道路整備の予算、計画の予算というのはすでに観音の方で市は取っていると僕は認識しているんですが、実際道路を作るためにいくら位お金が掛かって、いくら位年数がかかるのかを含めて、時間軸のところは押さえていきたいなというふうに思います。

三浦会長

それらを踏まえて、４月以降の半年でやらないといけないということですので、また熱がでるような議論になってくるかなと思っております。それで、次回、年度内の最後については、３月の下旬ということで調整していただいておりますので、決まりましたら連絡させていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。それでは若干時間が過ぎましたが、以上で本日の協議会を閉会したいと思います。皆さんありがとうございました。